

大雪山系縦走報告

5 日目 (8 月 31 日(日))

M3 只左一也

2009 年 8 月 27 日(木)ー9 月 6 日(日)

メンバー：M3 只左一也、M3 大橋雄一

1 日目：羽田空港→旭川空港→(バス)→層雲峡
→(ロープウェイ・リフト)→七合目→
黒岳→黒岳石室 (小屋泊)

2 日目：荒天のため沈黙 (小屋泊)

3 日目：黒岳石室→間宮岳→旭岳→間宮岳
→北海岳→白雲岳避難小屋 (小屋泊)

4 日目：白雲岳避難小屋→忠別岳→五色岳→
沼ノ原大沼 (幕営)

5 日目：沼ノ原→五色岳→化雲岳→
ヒサゴ沼避難小屋 (小屋泊)

6 日目：ヒサゴ沼避難小屋→トムラウシ岳→
南沼キャンプ場 (幕営)

7 日目：南沼キャンプ場→オプタテシケ山→
美瑛富士避難小屋 (小屋泊)

8 日目：避難小屋→美瑛富士→美瑛岳→
十勝岳→上ホロ避難小屋 (小屋泊)

9 日目：上ホロ避難小屋→富良野岳→
富良野岳分岐→(原始ヶ原)→五反沼
→(原始ヶ原)→富良野岳分岐→
原始ヶ原登山口→(車道)→布礼別→
(バス)→富良野駅→(電車)→
上富良野駅→日の出キャンプ場
(幕営)

10 日目：十勝岳温泉往復 (幕営)

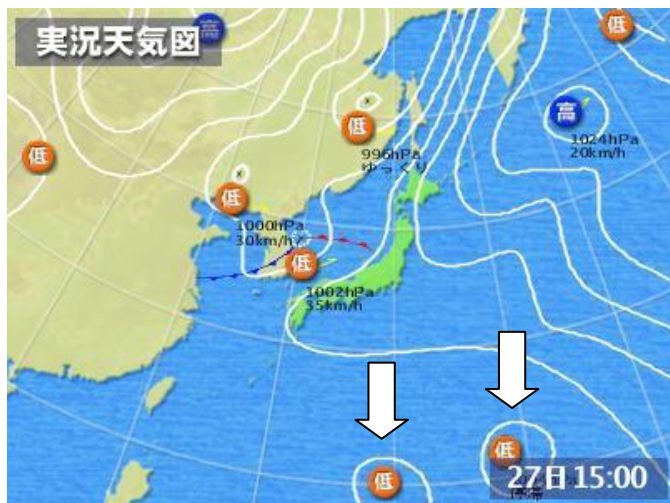
11 日目：上富良野→旭川空港→羽田空港(解散)

起床	05:00	
沼ノ原		06:30 発
五色岳	10:10 着	10:30 発
化雲岳	12:00 着	12:30 発
分岐	13:20 着/発	
ヒサゴ沼避難小屋	14:30 着	(小屋泊)
		(歩行時間：約 6 時間)

縦走初日(27日)に天気図を描いたときに、太平洋に2つ低気圧があり、これらが台風になるのではないかと心配をしていたら、案の定、1つが台風になって、しかも日本に向かって北上してきた。前日30日夕方の気象情報では、台風は関東の南にあって、今後東北地方の太平洋岸を北上して北海道の方へ向かってくるという。今日はトムラウシ山を超えてトムラウシ南沼(今年7月の大遭難事故で人がたくさん亡くなったテント場)でテントを張る予定だったが、予想では、明日9月1日は台風のせいで北海道は大荒れの天気になるというので、暴風雨の中テントで沈黙するのは止めて、今日はトムラウシ山の手前のヒサゴ沼避難小屋までとして、避難小屋で台風をやり過ごすことにした。

ヒサゴ沼避難小屋までであれば6時間弱の行程なので、前日の到着が遅かったこともあって、この朝は5時起床と、少しゆっくりした。起きてテントから這い出ると、風もなく、大沼の湖面にトムラウシがきれいに映っていた。食事を済ませ、テントをたたんで、6時半出発。

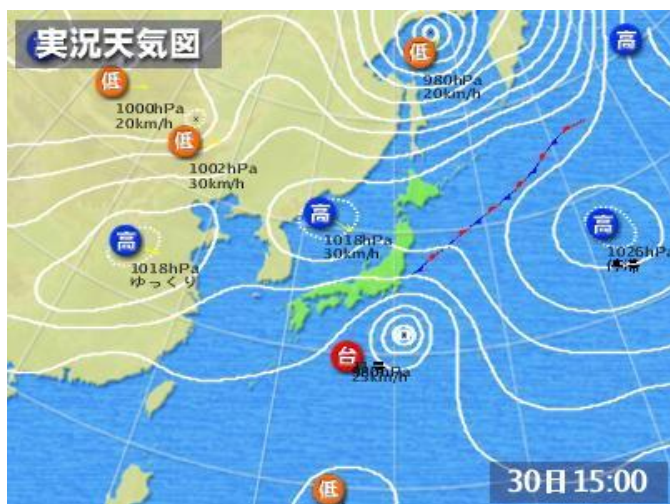
この日も曇っているが雲が高く、遠くの見晴らしは悪くない。トムラウシから五色岳、石狩岳、ニペソツ山と、周囲の山々はくっきり見えていた。大沼のテントサイトから一度大沼を離れて沼ノ原の湿原の中を通り、再び大沼に近づいてその脇を通り、やがてこの見事な湿原を離れる。縦走路から往復6時間半のより道だったが、たとえ往復で丸2日かけても寄り道する価値があると思う。それほど沼ノ原は素晴らしいところだった。



8月27日の天気図。矢印の低気圧が台風になるのではないかと心配していたら・・・



この日も風がなく、格好のいいトムラウシ山が大沼の湖面にきれいに映る。



案の定、台風となって日本に近づいてきた。しかも、北海道にまっすぐ向かってくる。31日は計画を変更して避難小屋に泊まり、台風をやり過ごすことにした。



五色岳周辺のなだらかな山々も湖面にくっきり。稜線からちょっと突き出ているピークが五色岳。



テントから顔を出すとこの景色。大沼キャンプ場は最高のテントサイト。



大沼を出発。沼ノ原の湿原の向こうに、石狩岳。



トムラウシ山の方へ向かって沼ノ原の湿原を進む。



道は再び大沼に近づき、その脇を通る。



このあたりで道は湿原を離れ、樹林帯に入る。



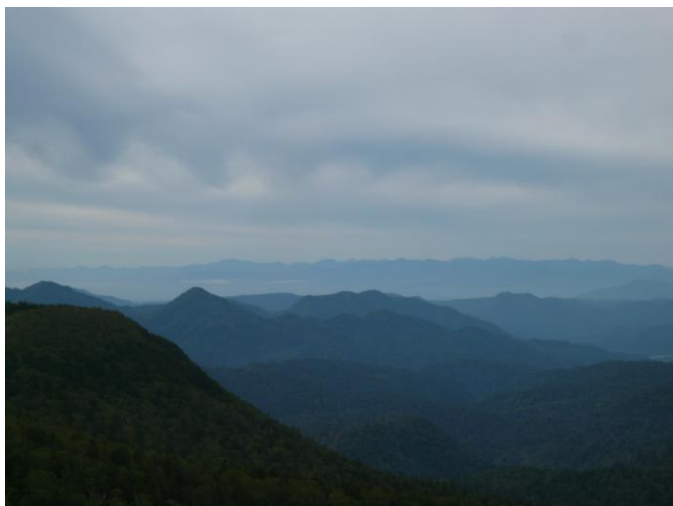
沼ノ原から緩く下り、五色の水場から台地状になっている五色ヶ原の縁の急坂を登る。南に目をやると、日高の山々がくっきり見える。

まだ点々と咲いている高山植物を楽しみながら、五色ヶ原を緩やかに登っていく。7月頃、高山植物の盛りの時期はきっとさらに素晴らしい景色なのだろう。

ところどころ笹がかぶさっているが、ほとんど木道が敷かれていて、重い荷物を背負っていると歩きにくくて、だんだん足の裏が痛くなってくる。湿原越しに見えるトムラウシ山が次第に大きくなり、五色岳に到着、縦走路に戻った。



五色ヶ原の縁の急斜面から南を眺める。遠くに日高がくっきり。



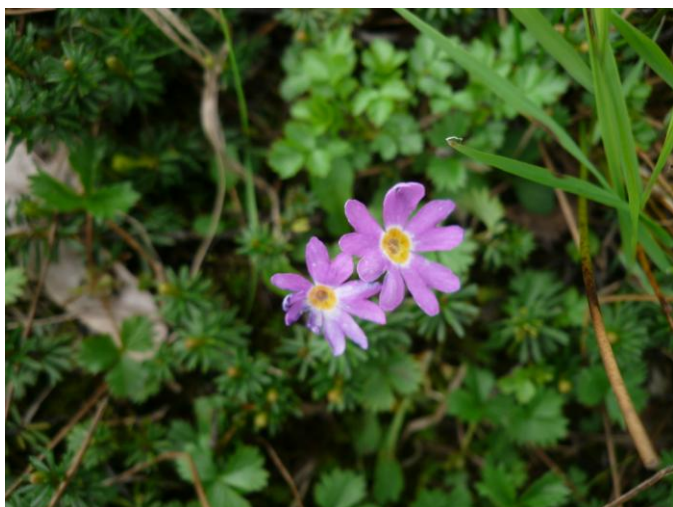
日高連峰。



クロウスゴ(?)の実。甘酸っぱくておいしかった。



ワタスゲ。



エゾコザクラ。



道はところどころ笹に覆われ、藪のようになっているところも。



五色ヶ原の湿原越しに眺めるトムラウシ山は格好いい。



日高には憧れを感じる。



五色岳山頂に到着。後ろを振り返る。手前の池は五色沼、奥の池は前夜テントを張った沼ノ原の大沼。右の山はニペソツ山、左の山は石狩岳。



トムラウシの姿が次第に大きくなる。

忠別山山頂で眺めを楽しみながら小休止。後ろを振り返ると、前夜泊まった大沼が遠い。

ここから縦走路は化雲岳へ向かって西に延びる。背丈を超えるハイマツの林の中を進む。北に目をやると、忠別山、旭岳の眺めが素晴らしい。「神遊びの庭」と呼ばれる湿地帯の脇を過ぎ、化雲岳山頂に到着（1954 m）。クワウンナイ川を遡行してきたという中年夫婦が休んでいた。正午の天気予報を聞くと、明日の午前中に台風は北海道の南の海上をかすめ、午後から天気が回復しそう、ということだった。

雲が多いが、山頂からはかなり遠くまで見える。双眼鏡で北の方を眺めると、山が幾重にも連なっている。利尻岳も見えるのではないかとよく探してみたら、それらしき山はあったが、はっきりとは分からなかった。



背丈を超えるハイマツ林の中を進む。中央やや左のピークが化雲岳。



ここはまだ花がたくさん咲いていた。



旭岳と忠別岳（右）。



ミヤマリンドウ。



エゾヒメクワガタ。



「神遊びの庭」と呼ばれる湿地帯。



化雲岳までなだらかな道が続く。



化雲岳山頂に到着。奥秩父の金峰山の五丈岩のような大きな岩。



山頂から北の眺め。旭岳～白雲岳一帯はひときわ高い。



十勝岳方面。中央やや左の円錐形の山がオプタテシケ山。その右に並ぶ小さなピークが十勝岳、そして美瑛岳。



天人峡温泉方面の尾根の枝尾根。



西の眺め。下方の沼の点在する場所は、「神々の庭」というすごい名前がつけられている。きっと、素晴らしいところなのだろう。



トムラウシ山周辺は台地のように盛り上がっている。その右、遠くに見えるのは十勝岳周辺の山々。

化雲岳山頂で景色を存分に楽しみ、出発。宿泊予定のヒサゴ沼避難小屋まで1時間ほど緩やかに下るだけなので、気分が楽である。

トムラウシ山を正面に望みながら緩やかな斜面を下って行くと、大きな岩が散在する庭園のような場所になる。たらたら歩いていると、周りからナキウサギの声がたくさん聞こえる。近くで姿を見ようと、立ち止まっていると、あちこちにナキウサギが姿を現す。写真を撮りたいのだが、体を動かすとすぐに隠れてしまい、なかなかうまくいかない。

ヒサゴ沼への分岐から縦走路を離れ、左手へ進むと巨岩がごろごろする道となる。ナキウサギが多く、あ

ちこちから声が聞こえ、巣から出てきたナキウサギがちよろちよろする。写真を撮ろうと、じっと待って粘ることにした。しかし、警戒心が強く、シャッターチャンスはあったものの、いい写真は撮ることはできなかった。コンパクトカメラで小動物の写真を撮ろうというのがそもそもの間違いなのかもしれないが・・・。

それでも、近い距離で十分に観察することができた。こちらにお尻を向けて2本足で立ち、餌を食べる仕草は本当に可愛かった。このために重いのを覚悟で持ってきた双眼鏡でナキウサギの表情まで観察することができて、大変満足だった。今回の縦走の大きな目的の一つを達成することができた。

ナキウサギ観察を存分に楽しんで出発。少し進むと雪溪の向こうにヒサゴ沼が現れた。沼の周囲はイワイチョウの黄葉が見事で、まるでじゅうたんを敷いたようだった。沼の北岸沿いに歩き、2時半、避難小屋に到着。先客は2名パーティー1組だけだったが、その後、黒岳石室でいっしょになった鳥取大学のワングルの5人パーティーも含めてそろそろと団体が到着、結局私たちを含め、5パーティー15人となった。

この日も、前日ほどではなかったが、夕焼けがきれいだった。



ツツジの紅葉とイワイチョウの黄色、ハイマツの緑が鮮やか。



化雲岳山頂からヒサゴ沼に向けて出発。



トムラウシ山まで、大きな岩がごろごろするナキウサギの絶好の住処。じっとしていると、あちこちからナキウサギが姿を現す。



ヒサゴ沼へは、この分岐で縦走路を離れて左へ進む。



雪溪の下流にあたる右側の流れが水場。



真ん中にナキウサギが写っているのだが…。



ヒサゴ沼。雪溪を下る。遠くはニペソツ山。



イワイチョウの黄葉。まるでじゅうたんのよう。



沼の北岸沿いを進む。



ヒサゴ沼避難小屋。



ここもまだ花がたくさん咲いている。



